松本事務長と出張先に向かう、有楽町線の車内での会話。「あの建物はどこでしょうか？」と聞く、事務長の視線の先にはポスターが。「築地の本願寺。伊東忠太でしょう。」「ですよねぇ。築地の本願寺って、兵庫県と関係があるのでしょうか。」「・・・・・？。」

その時には私も分からず、後日、池袋駅の地下道に貼ってある、「兵庫テロワール旅」のポスターをじっくりと眺めてみました。

東京メトロと兵庫県が共催で、都内にある兵庫ゆかりの地を巡るデジタルスタンプラリーの企画のようです。きっと、築地本願寺を建てた伊東忠太氏が兵庫県の出身だろうと踏んで、調べてみたら大外れ。伊東氏は、山形県米沢の出身でした。そこで「兵庫テロワール旅」の公式サイトを見てみました。

「フランス語で『地球』や『土地』を表すterre　から派生した『terroir＝テロワール』。主にワインの世界において、その味や性質を左右するブドウ畑の土壌や気候、職人の技術などとりまく環境を表す言葉として使われています。私たちは、もう少し広義に、風土や歴史を深く知ることで、その土地に芽吹き根付いた『食』をはじめ、『文化』や『伝統』の魅力をより強く感じ受け取ろうとする　いとなみと捉えています。」云々。

さらに見てみると、スタンプスポット9に築地本願寺（酒井抱一墓）とあるではありませんか。酒井抱一（さかい　ほういつ）さんは江戸時代の絵師で文人ということぐらいは知っていましたが、調べてみるとなんと、姫路のお殿様の孫だったのだそうです。姫路＝兵庫という訳だったのですね。

私の頭の中にあった酒井抱一さんは、「千住の酒合戦」に同席、見分と記録役を引き受けていた人というイメージ。この酒合戦は、決められた時間内にどれだけお酒が飲めるかの競争。並み居る酒豪の様子が絵入りで『後水鳥記』という本に記されています。この本の作者が太田蜀山人。ちなみに、『後水鳥記』の「水鳥」は、「すいちょう」と読ませるもので、「水」は氵（さんずい）、「鳥」は「酉」（ひよみのとり）、すなわち「酒」を意味している、酒臭～い本。面白い話満載なのですが、ここで酒の話は、避けましょう。

「立教小学校テロワール」ってなにかしらと、考えてみました。先ごろの学校説明会で、「キリスト教の学校である本校においては、神様から与えていただいた、一人ひとりの個性を大切にするというのは当然の事だと思っています。ただ、子どもたちのありのままの価値を認めるということは、子どもたちが何をしてもいいという事ではありません。『勉強しないのも個性』『いたずらをするのも個性』。うちの子の個性を大切にして、ノビノビさせてやってくださいというのは、まったくの勘違いです。『勉強しない』とか、『いたずらする』というのは個性ではなくて、『行動』です。社会的な訓練を受けていない身勝手な行動は『個性』ではなくて『野生』です。私たちは個性的な存在であると同時に、人間ですから、人間として守らなければならないルールもあります。人間社会を生きていく上で必要な知識もあります。ありのままに生きるということは、生まれたままで何もしなくていいという事ではありません。そして、好き勝手に振る舞っていいということでは断じてありません。『個性』とは、子どもたちが生き抜くために神様から与えていただいた能力の事です。本校はそれを伸ばすために努力する学校です。そして、失敗しても失敗しても、反省できるより所とチャンスのある学校です。」と、述べさせていただきました。

男子校独特のローカルルールもいくつかあり、「立教小学校テロワール」はまだまだ、たくさんありそうです。変えてはならぬ「テロワール」は守り続け、変えなくてはならぬものは勇気を持って変えていくことも必要と考えています。本校独自の「テロワール」が馥郁（ふくいく）と漂うような学校を目指して、教職員一同、努力を続けてまいります。

ちなみに、兵庫テロワール旅のデジタルラリーは6/25で終了したようです。偶然でしょうが、築地本願寺の竣工年月日は、一九三四年の6/25だとか。（立教小学校校長　田代　正行）